西東京市市民協働推進センター

平成28年度第4回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成28年7月19日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階　第1、2会議室
■出席委員：池田委員、伊藤委員、熊田委員、紺野委員、坂口委員、鈴木委員、田中（友）委員、田中（宏）、谷委員、富沢委員、中村委員、＜以上11名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、板垣、小平福祉活動推進課長、妻屋地域福祉推進課長補佐兼係長、八阪主事

本年6月より就任した運営委員の委嘱と自己紹介があった。

## 1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、6月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：サロンコーナーにおむつ替えのスペースが欲しいという要望があるが、実際に必要なのか。

事務局：子育て関係の団体からの要望である。ゆめこらぼには、子育て関係の団体の登録も多く、具体的にスペースや費用が取れるかも含めて検討をしたい。

委員長：前回の運営委員会で今年度のNPO市民フェスティバルについて西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）との関わりについて、ボラセンと認識の食い違いがあったようだが、その後話し合いはあったか。

事務局：まだない。

委員長：アートみーるボランティア募集の相談の件だが、西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）にも繋いだのか。

事務局：繋いでいない。

委員長：このような相談こそ、ボラセンに繋ぐべきと考える。

2. 7月以降の事業について

事務局より、7月以降の実施事業について説明があった。

委員長：本日の協働のまちづくりワークショップに運営委員二人が参加したようなので感想を伺いたい。

委　員：講師の横田氏が体験した話を聴くことができ、具体的な課題について話し合ったので良かった。

委　員：取材として参加したためワークショップには加わらなかったが、参加者に聞くと概ね好評であった。最後にまとめの発表を聞く限りでは、協働で何かしようという話はなかったので、普通のワークショップとあまり変わりないと感じた。協働で何かできるのかという事を横田氏に聞いたところ、自治会長はいざという場では負担が多い。実際にはフリーの立場の人たちの役割が重要で、だからこそ住民と行政を繋ぐ役割が重要なのだと聞き納得した。ワークショップの中で、参加者にそのような説明はされていたのかを聞きたい。

委　員：私のグループは、2人行政、2人市民で、「在宅の人は避難者か」というテーマで話した。避難していない人を差別せずにすむかということやボランテイアが外部から来た場合、困って

いる人を行政とつなぐことが出来るか、などの話題が出た。行政からは臨機応変に対応するという話も出され、いい雰囲気で話し合いがすすめられた。

委員長：最終の発表のお題は何だったのか。

委　員：課題が 4 つあったので各グループで議論し、テーマごとに発表した。

事務局：どこに問題の本質があるのか、解決策について、解決策はすぐにできないので日頃からどのようなことに取り組めるかと、3 つの観点で進行した。今回はゆめこらぼに登録していない方も多く、いろいろな組織の方の参加もあり、顔合せのよいきっかけができた。

委員長：防災関係の登録団体も参加したのか。3 つの観点では誰と協働するかなどの話はなかったのか。

事務局：参加していた。課題については話合いの中で具体的に協働になるかどうかは、各グループ次第だと考える。

委員長：テーマとしては、継続性も考えられる事業である。

## 2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

## 3. 協　議　事　項

1. 重要事業の企画について

事務局より、今年のまちづく円卓会議の進め方（案）について説明があった。

委員長：本質的なものもあるので、議論を進めたい。前半は企画案に対しての今年度の具体的な進め方、後半は課題に対しての課題解決のアイデアなどの意見を出してほしい。公民館との連続講座に対する意見、質問はないか。

委　員：公民館講座は、チラシの原案なのか、あるいは内容ができているのか。

事務局：ほぼ内容は固まっている。

委　員：超高齢化社会の問題は弱者的な見方になりがちだが、元気な高齢者に目を向けたようにするにはどうしたらよいか。

事務局：超高齢化というチラシのタイトルは、見直しもあると思う。構成は 1～6 回を予定しており、第 1 回はプラチナ社会として発想を変え元気な高齢者や多世代交流の場をつくるなどの話を予定している。第 2 回目は西東京市の状況、第 3 回目は多世代交流の実例を踏まえて行うことを予定している。残り 2 回はワークショップ、最終回はまちづくり円卓会議という構成で考えている。元気な高齢者も視野に入れている。

委　員：まちづくり円卓会議のイメージとして、3 回とも違うテーマもあり得るという事か。

事務局：毎回課題を変えていろいろなテーマをやることにより、様々な人を巻き込んでいきたいと考えている。従来のやり方を継続することも考えている。

委員長：１回ごとの会議で完結するとなると、市民会議とどう違うのか。そうならないように深みをつけて欲しいと考える。単発のテーマで行うことについて意見はあるか。

事務局：完全に１回で終わるということではない。来年度に引き継ぐということもある。

委　員：まちづくり円卓会議終了後も、活動は継続している。それをひとつの目的とするなら、回数とテーマを決めて進めることもあると思う。課題解決をすることから言うと、1 回ではどうに

もならない。超高齢社会を課題とするなら、どのような課題を解決するのか。まちづくり円卓会議の目的を整理する必要があるのではないかと思う。

委員長：１回目の内容についての意見と、3 回をいろいろなテーマでやってみるという 2 つの論点が出ているが、意見はないか。

委　員：公民館との連携講座であるが、6 回目に出るメンバーは受講生 25 人と講師の方々ということか。

事務局：受講生の中の何名かは、円卓会議メンバーに入ってもらう。必要であれば、他からも入っていただく。課題解決を目指すことには変わらないが、誰が解決するのかという点でテーマに合わせた人だけが参加するのではなく、固定的なメンバーが円卓会議のメンバーになって解決まで持っていくような動きもしたいとも考えている。公民館がもっている人脈も引き寄せるようにしてみたい。地域包括支援センターのもっているネットワークも加え、テーマごとにメンバーを変えるのではなく固定化したメンバー化も考えている。

委　員：今の話は面白いと思うが、公民館との連携は公民館の講座でやれば良いと思う。流れはできているようだが、なぜ公民館企画としないのか。円卓会議は別に人を集めて開催すればよいのではないか。

事務局：学ぶことから行動していく仕組みに、ゆめこらぼとして関わることで、円卓会議に必要な人を呼びかけ、その力をかりて行動に結びつくきっかけになっていけばいいと思う。行動している中で学びが必要になれば、公民館で再度学ぶ循環が生まれる仕組みを作りたい。

委員長：連続講座にとどめるのか、いろいろなテーマをやってみるのかについて意見はないか。

委　員：超高齢社会の課題が何かで、着地点が違ってくるのではないか。具体的な課題を知りたい。

委員長：課題の作り込みは必要だと思う。円卓会議においてはテーマを絞るにあたり配慮するポイントを考える必要がある。

委　員：質問だが、5 回目までにテーマを絞り込んで、6 回目では、専門家なり一緒に考える仲間をよぶということか。6 回目だけ関わる方もでてくるのか。それは両者にとってどうなのか。

委　員：連続講座の中では、まちづくり円卓会議を体験することは良いと考える。そこで徐々にゆめこらぼに軸足をもっていくのもいいのではないか。円卓会議を継続してやるよりは、円卓会議そのものを知らない人もいるので、シミュレーション的にやることは良いと考える。超高齢化社会という大きなテーマで考えるうえで、まちづくり円卓会議という手法を学び、次に考えていくやり方で良いのではないか。

委員長：2 回目、3 回目を同じテーマでやっていくのが良いのか。

委　員：会議の目的をどう考えているのか。ゴールがどこになるのかを知りたい。

事務局：これまでの円卓会議では、サークルのような団体が形成されたという成果に繋がった。具体的な課題解決をすすめることを目的にするのであれば、3 回と限られた中では厳しいのではないか。初対面のメンバーもいる円卓会議で、公開であることの困難もある。沖縄方式の円卓会議では 1 回で行うかたちもある。課題解決にむけて、集まった様々な人が、共通に話し合う場を持つことに意義もあると考えている。可能であれば、それも視野に入れたい。

委　員：いろんなテーマで開催するという意味は、円卓メンバーとなる人材を作っておきたいというイメージか。円卓会議のコアメンバーを作りたいということか。

事務局：今後の仕掛けとして考えていきたい。

委員長：話をするリソースとしてもっておきたいということか。テーマを 2 回目以降どうするか。

委　員：検証が必要だと思う。可能なら継続し、つなげられたのかの検証を２回目に行えばと思う。
委　員：各テーマ１回でやってみればいいと思う。テーマごとで１度やってみれば良いのではないか。うまくいかなければ戻せばいい。公開するか、しないかが気になる。以前の円卓会議を振り返ってみると、非公開で行った会議が一番良い話合いが出来たと感じる。公開するのであれば、多くの人にそのことが周知できるように展開したほうが、価値を持つのではないか。
委　員：１回ごとにテーマを変えてやってみるのは良いと思うが、公民館講座と連携するのは、テーマごとに人を集めること自体が難しいからなのか。ゆめこらぼがテーマを決めて円卓会議をするとなった場合、登録団体などから 40～50 人はすぐ集められるのではないか。
事務局：現実的には、それぞれの NPO は性格が違うという多様性があるため、いざという時にテーマに応じてメンバーを集めることは難しい。このためにコアメンバーを作っておきたいという気持ちもある。
委員長：円卓会議は良い取り組みである。4 つの課題についてコメントあれば出してもらいたい。次回以降もテーマに出してほしい。多様性の確保、メンバーの固定化、多様な課題に取り組むことができるメンバー、広報など 4 つの課題について意見はないか。
委員長：広報についてだが、まちづくり円卓会議は、行っている地域が少ないので、ホームページの中に特設サイトをつくり発信していくと他の自治体にも参考になる。スピンアウトしてできた会の情報もあげていけるような形にしていくのはどうか。地域課題を出して話し合おう！などと出していく場をつくっていくことなど、その部分をサイトできちっとアーカイブ、アップデイトな情報をだしていくことを提案する。
委　員：今までやってきた中で、継続的に来られた方はいると思うが、ターゲットとなる多様な方々にあったテーマ、メッセージ性、日程設定など整理をすると、広報手段が決まってくると思う。ターゲットの設定はしているのか。
事務局：あまり出来ていなかったと思う。円卓会議の目的は、地域課題を解決することであり、それを誰がやるかという点で、ネットワークを強化するという方策も考えたが、それは主ではない。あくまでも円卓会議を通じた課題解決が目的である。
委　員：企業とかに勤めている方を集めるなら、別テーマで積極的にゆめこらぼのネットワークをつくるのが本来の仕事ではないのか。
委　員：話合いの内容についての公開をどこまで許容するのかを、明確な基準を作った方がいい。出来る限り情報開示すべきだ。
委員長：最初にメンバーに確認すればいいことだと思う。
委　員：公開によって、発言が外にでてしまうことで発言を抑えてしまうこともある。そうすると円卓会議を進める上では、うわべだけの会議になってしまうことも考えられる。公開が基本と思うが、慎重に考える必要はあると考える。
委員長：公開については、最初の段階で参加メンバーに確認をすれば可能ではないか。
事務局：この件に関しては、協働コミュニティ課との公開・非公開の検討が必要と考える。調整をすることとする。

事務局より地域活動紹介ゆめサロンについて説明があった。
委員長：今年度「まちめぐり」第 2 ということだが、意見はないか。

委　員：団体活動紹介なので、団体が実際に活動をやっている日程でお願いしたい。
委員長：日程など内容に関しては、おとぱ・ミディサロンで調整してほしい。

事務局よりホームページリニューアルの制作状況について説明があった.
委員長：まだ進捗途中なので、何かあれば言ってほしい。制作は 9 月末には終わり、10 月 1 日にオープンする。円卓会議の特設サイトは、追加してください。

## 4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について
　日時：9 月 20 日（火）19 時～21 時
　会場：田無庁舎 202, 203